

## 精神保健福祉の理論と相談援助の展開

問題 36 精神保健医療福祉関連の法制度の変遷に関する次の記述のうち、正しいものを1つ選びなさい。

- 1 精神病者慈善救治会の働きかけにより精神病者監護法(1900(明治33)年)が制定された。
- 2 精神病院法が目標とした全道府県での公立精神科病院の建設が達成され、精神衛生法(1950(昭和25)年)が制定された。
- 3 精神障害者も対策の対象に含めた心身障害者対策基本法(1970(昭和45)年)が制定された。
- 4 精神衛生法が精神障害者の人権に配慮した適正な医療及び保護を明示した精神保健法(1987(昭和62)年)に改称・改正された。
- 5 精神保健法が精神障害者社会復帰施設を法定化した「精神保健福祉法」(1995(平成7)年)に改称・改正された。

(注) 「精神保健福祉法」とは、「精神保健及び精神障害者福祉に関する法律」のことである。

**問題 37** 精神科ソーシャルワーカーの活動の歴史に関する次の記述のうち、正しいものを1つ選びなさい。

- 1 1960年代には、地域の中の住まいや居場所づくりの取組が全国で進められた。
- 2 1970年代には、精神衛生相談員として市町村の社会福祉担当部局への配置が進んだ。
- 3 1980年代には、退院を促進するために、精神科医療機関への配置が義務づけられた。
- 4 1990年代には、「医療観察法」が制定され、司法福祉の領域に参画するようになった。
- 5 2000年代には、精神保健福祉士がスクールソーシャルワーカーとして、活用されるようになった。

(注) 「医療観察法」とは、「心神喪失等の状態で重大な他害行為を行った者の医療及び観察等に関する法律」のことである。

**問題 38** 「精神保健福祉法」第5条に規定されている精神障害者の定義に関する次の記述のうち、正しいものを1つ選びなさい。

- 1 自傷他害のおそれのある者としている。
- 2 知的障害のある者を除くとしている。
- 3 障害及び社会的障壁により、生活に制限を受ける状態にある者としている。
- 4 精神疾患を有する者としている。
- 5 精神障害者保健福祉手帳の交付を受けた者としている。

**問題 39** 2週間前からU精神科病院の開放病棟に医療保護入院しているKさん(19歳、女性)は、思考の混乱が収まった実感がでてきて、退院したいと思っている。ある日Kさんは「退院したいけど主治医の前に出ると緊張して言葉が出ない、両親も取り合ってくれない」と、入院当初から信頼を寄せているL精神保健福祉士に訴えてきた。Kさんは、診察の際、主治医から「ゆっくり治療しましょう」と勧められ、自分からは退院の話を言い出せなかつたと話してくれた。

次の記述のうち、L精神保健福祉士の対応として、適切なものを1つ選びなさい。

- 1 退院には両親の許可が必要であると説明した。
- 2 行動制限最小化委員会で協議できると説明した。
- 3 主治医に代わって病状を詳しく説明した。
- 4 L精神保健福祉士も診察に同席できると説明した。
- 5 任意入院へ形態変更できると説明した。

**問題 40** 精神科リハビリテーションに関する次の記述のうち、正しいものを1つ選びなさい。

- 1 精神科リハビリテーションは、入院患者の退院促進を目的とする精神医学の治療技法に位置づけられる。
- 2 精神科リハビリテーションにおける評価・訓練の目標は、日常生活動作(A D L)の改善である。
- 3 精神科リハビリテーションの二大介入とは、当事者の技能開発と環境的支援開発である。
- 4 精神科リハビリテーションは、急性期の症状が消失し、落ち着いた状態が続いていることを確認してから開始する。
- 5 精神科リハビリテーションの実施にとって、薬物療法は必要かつ十分な条件である。

問題 41 精神科リハビリテーションの評価に関する次の記述のうち、正しいものを2つ選びなさい。

- 1 アセスメントとモニタリング、エバリュエーションの3つがある。
- 2 アセスメントは、効果の判定、欠点、将来予測及び今後の改善策を検討することである。
- 3 G A F (Global Assessment of Functioning)は、精神症状を含めた社会生活の全体機能を評価する。
- 4 職業能力評価尺度のフェイススケールは、面接による自己報告でチェックする。
- 5 職業レディネス・テストは、160の職業名についての興味や関心の有無を回答するようになっている。

問題 42 精神科専門療法に関する次の記述のうち、正しいものを1つ選びなさい。

- 1 入院患者に対する作業療法では、パラレルな場を設定し、共通課題に取り組む中で対人交流の技能を高める。
- 2 入院患者に対するレクリエーション療法では、誰でも参加できるプログラムを用い、集団での秩序だった行動を身につけさせる。  
だれ
- 3 認知行動療法では、主観的な体験に解釈を加えることで洞察を促し、病的な行動の修正を図る。
- 4 社会生活技能訓練(S S T)では、認知行動療法の技法を用い、宿題を課すことにより練習で得た技能の般化を目指す。
- 5 集団精神療法では、司会者が何を言っても良いと宣言し、参加者の自由な意見交換を促す。

問題 43 精神科チーム医療に関する次の記述のうち、正しいものを1つ選びなさい。

- 1 精神保健福祉士法では、精神保健福祉士はその業務を行うに当たって、精神障害者に主治の医師があるときは、その指示を受けて行うこととされている。
- 2 精神障害者アウトリーチ推進事業における職員配置は、保健師、看護師、精神保健福祉士のいずれも配置することとされている。
- 3 精神科訪問看護・指導料は、精神保健福祉士が実施した場合にも、診療報酬を請求できる。
- 4 医学的リハビリテーションを実施する際には、精神保健福祉士も医療チームの一員として医療モデルの視点で支援を行うことが求められる。
- 5 精神保健福祉士は、他職種・他機関の専門性と価値を尊重し、相互に干渉せず、お互いに役割を果たすことが重要である。

問題 44 次の記述のうち、精神保健福祉士が行うインタークとして、適切なものを1つ選びなさい。

- 1 クライエントが沈黙した場合、話題を変えて面接を継続する。
- 2 クライエントの不安に同情し、同一化を通して援助関係を構築する。
- 3 援助の方針を検討するため、家族や関係者からも必要な情報を得て総合的に評価する。
- 4 問題解決に向け、長期目標・中期目標・短期目標を立てる。
- 5 精神保健福祉士自身の発する非言語的メッセージに留意する。

**問題 45** Mさん(25歳、女性)は、「精神科を受診したい」と市役所のN精神保健福祉士のもとを訪れた。3週間前に夫を交通事故で亡くしたMさんは、葬儀後、何かしなければと思うのだが、気持ちの整理がつかずにいる。1週間前からは過呼吸(過換気)発作が出て、子どもの世話が思うようにできなくなっているという。N精神保健福祉士は、Mさんが悲しみの感情を十分に表出できるよう耳を傾けた。さらに、1歳になる娘の預け先が見つからず職探しに取り組めていないというMさんに、市内の精神科医療機関の紹介とともに、市の子育て支援制度の利用を支援した。

次のうち、N精神保健福祉士の用いたアプローチとして、適切なものを1つ選びなさい。

- 1 危機介入アプローチ
- 2 ナラティブアプローチ
- 3 課題中心アプローチ
- 4 行動変容アプローチ
- 5 心理社会的アプローチ

**問題 46** 精神保健福祉士が行うエンパワメントアプローチに関する次の記述のうち、正しいものを1つ選びなさい。

- 1 支援過程における主導権は精神保健福祉士が持つ。
- 2 自尊心を高める過程を支援する。
- 3 リスクの高い課題への挑戦は回避する。
- 4 契約を交わして計画的に短期間に取り組む支援である。
- 5 障害や疾病を自ら受容できるよう内面に働きかける援助である。

問題 47 精神保健福祉士が行うグループワークの原則に関する次の記述のうち、正しいものを1つ選びなさい。

- 1 「秘密保持」の原則を踏まえ、就労移行支援事業所においてメンバー同士がプライバシーに触れる質問を禁ずるルールを定める。
- 2 「制限」の原則を踏まえ、アルコールデイケアにおいて再飲酒したメンバーの参加を制限する。
- 3 「個別化」の原則を踏まえ、地域活動支援センターで個々のメンバーが好きなプログラムを選べるようにする。
- 4 「参加」の原則を踏まえ、精神科デイケアでメンバー各自がその能力に応じて参加できるような活動を考え、メンバー相互に交流ができるように促す。
- 5 「葛藤解決」の原則を踏まえ、病棟のレクリエーショングループでメンバー同士の衝突を取り上げないようにする。  
かとうかいけつ

問題 48 精神保健福祉士が行うアルコール依存症者家族の支援に関する次の記述のうち、正しいものを1つ選びなさい。

- 1 飲酒によるトラブルの解決を、本人に代わり家族が担うよう支援する。
- 2 支援の対象は、未成年の子どもを除く成人の家族である。
- 3 自助グループとして、ナラノン(Narcotics Anonymous)を紹介する。
- 4 エコマップを家族と作成し、社会資源との関係で問題を理解できるようにする。
- 5 本人が飲酒をやめないのは、意志が弱いためであることを理解できるようにする。

## (精神保健福祉の理論と相談援助の展開・事例問題 1)

次の事例を読んで、問題 49 から問題 51 までについて答えなさい。

### [事例]

Aさん(23歳、男性)は、約1年前からVデイケアセンター(以下「Vセンター」という。)に通所している。高校2年の時に友人との関係から不登校となり、家にひきこもるようになった。一時的に登校しても対人関係でのストレスを感じると寝込むことが多く高校は中退している。ひきこもるようになってから精神科クリニックを受診し、統合失調症との診断を受けている。陽性症状は一時的には認められていたが、現在は消失しており、精神科病院への入院歴もない。

Vセンター通所開始当初は、疲れやすく週2日通うのがやっとであったが、徐々に週5日通所できるようになっていた。Vセンターでの作業を伴うプログラムでは他のメンバーと比べ遂行能力は高いが、対人関係には敏感で時折悩みこむことがあった。その際は、デイケアスタッフのB精神保健福祉士のサポートにより何とか解決していく。Aさんの住んでいる地域は、Vセンターのほかに地域活動支援センターや障害者就業・生活支援センターなど社会資源も豊富で、支援ネットワークも形成されている。

B精神保健福祉士は、今後について話し合うためにAさんと面接を行ったところ、「一般企業で就労したいが、これまで仕事をした経験がないので、できるかどうか自信がない」とのことであった。(問題 49)

その後、Aさんは関係する施設の支援を受けて就労を開始し、1か月が経過した。この間連絡なく2回欠勤したが、仕事は何とかこなしているとのことだった。今後の支援について、地域の関係機関が集まってケアカンファレンスを行った。(問題 50)

Aさんが就労して3か月ほど経過して、関係する施設のC精神保健福祉士にAさんから「相談したいことがある」との連絡が入った。会って話を聞いてみたところ、「仕事上でミスをしてしまい、会社に迷惑をかけてしまった。それ以来また同じことをしてしまうのではないかと不安で仕方がない。退職した方がよいと思い、職場の上司に辞めることを伝えてきた」とのことだった。(問題 51)

**問題 49** 次の記述のうち、AさんへのB精神保健福祉士の提案内容として、適切なものを1つ選びなさい。

- 1 就労移行支援事業所を利用する。
- 2 障害があることを開示しないで公共職業安定所(ハローワーク)で求職活動を開始する。
- 3 就労継続支援B型事業所を利用する。
- 4 特例子会社で就労する。
- 5 一般企業で就労する前提として、精神障害者保健福祉手帳を取得する。

**問題 50** 次の記述のうち、Aさんへの今後の支援策として、適切なものを1つ選びなさい。

- 1 良好な関係ができているB精神保健福祉士が今後も支援を継続することとした。
- 2 医療・福祉の職員がかかわると甘える気持ちが出てくるので、Aさんの支援は職場の上司が担当することとした。
- 3 特定の人を決めて支援を行うのではなく、職場のナチュラルサポートに任せることとした。
- 4 Aさんの主治医が外来時に状況を把握し、アドバイスするので、その他の担当者の支援は必要ないとした。
- 5 ジョブコーチによる支援を継続し、Aさんと職場に対して職場定着支援をしていくこととした。

問題 51 次の記述のうち、相談を受けたC精神保健福祉士のAさんへの対応として、適切なものを1つ選びなさい。

- 1 ミスについて気にしないようアドバイスをし、頑張って今の仕事を続けるよう励ました。
- 2 今の職場は退職して、障害者就業・生活支援センターで作業訓練をするよう勧めた。
- 3 「退職した方がよい」との本人の意向を尊重し、すぐに退職することを勧めた。
- 4 主治医に連絡し、臨時受診をすることを勧めた。
- 5 相談を受け止めた上で、Aさんの職場の上司や同僚から聞き取りをし、客観的状況について把握することとした。

## (精神保健福祉の理論と相談援助の展開・事例問題2)

次の事例を読んで、問題52から問題54までについて答えなさい。

### [事例]

Dさん(24歳、女性)は両親と弟の4人で暮らしている。大学卒業後、ある会社に入社したが、悪口を言われてつらいと言って1年あまりで退職した。その後、自宅でも「同僚の声が聞こえる」と言うようになり、約半年経過しても改善せず、自宅閉居の状態が続いたために両親が強く勧めて精神科病院を受診した。この時Dさんは「自分の考えが抜き取られる」「テレパシーで操られる」などの体験も語った。しかし、Dさんはどうしても通院や服薬の必要性を認めなかっただので、精神保健指定医の判断で入院となった。なお、診断名は統合失調症であった。

入院して1週間ほど経過した時、Dさんは面会に来た両親に「なぜ入院させた」と責め「通院するから今すぐ退院したい」と訴えた。両親は、Dさんの意思に反して入院させたことを後ろめたく思っていたことから動搖し、病院のE精神保健福祉士にどう対応すればいいか相談した。(問題52)

その後、Dさんは外来通院で治療を継続することになった。その時のDさんはあまり「声が聞こえる」などとは言わなくなったものの、昼くらいまで眠る生活が続いていた。また、通院前日から外来に行けるか心配して落ち着きがなくなり、帰ってくると「疲れた」と言って寝込んでしまうことが続いた。母親は、Dさんから主治医との診察の様子を聞いて、Dさんが病状をきちんと伝えていないのではないかと懸念していた。そんなある日、Dさんから「母親とけんかしてしまった」と興奮した声でE精神保健福祉士に電話が入った。Dさんが帰りの電車の中で「見知らぬ男の人が自分の悪口を言った」と母親に話したことを受け、母親が「しつせき病院で先生にちゃんと話さないからいつまでたっても治らないのよ」とDさんを叱責したことが発端という。E精神保健福祉士は電話で助言を行った。(問題53)

その後、5か月が経過し、Dさんの陽性症状の訴えはほとんどなくなったものの、受診以外、家にひきこもりがちな状態が続いていた。そんな時、DさんからE精神保健福祉士に「これからどうしていったらいいか」と相談してきた。(問題54)

**問題 52** 次の記述のうち、このときの**E**精神保健福祉士が行う両親へのアドバイスの内容として、適切なものを1つ選びなさい。

- 1 いったん入院した以上、病気が改善するまで治療を続けることが必要である。**D**さんの両親に対する不満はやがて解消するから今は取り合わなくていい。
- 2 **D**さんの不満も両親の動搖も決してまれなことではない。**D**さんの病状と見通しについて主治医から説明を受けて、両親の考えを**D**さんに伝えたらどうか。
- 3 退院は主治医が決定する事項であるので、何とも言えない。両親が**D**さんを退院させたいのであれば、主治医に連絡するので言ってほしい。
- 4 **D**さんの不満を放置することはよくない。しかし、**D**さんを今退院させたら、両親が仕事を休んで療養を支えるくらいの覚悟が必要になる。
- 5 両親の入院治療に対する動搖が**D**さんに悪影響を及ぼしている。両親は感情的に巻き込まれ過ぎていることを反省し、しばらく面会を見合わせたらどうか。

**問題 53** 次の記述のうち、**E**精神保健福祉士の電話での対応として、適切なものを1つ選びなさい。

- 1 **D**さんの話を傾聴した後、「今は興奮しているので、夕食後に服用する薬をすぐ服用し、落ち着いた後改めて話し合うように」と助言した。
- 2 **D**さんの話を傾聴した後、「気分を落ち着けないと再発し入院になる可能性があります」との見通しを伝え、気分転換のために散歩に行くことを強く勧めた。
- 3 **D**さんの話を傾聴した後、「主治医に病状を伝えていない**D**さんにもよくないところがあります」と指摘し、冷静になるように説得した。
- 4 **D**さんの話を傾聴した後、**D**さんの気持ちに理解を示し、「どうしたらいいか一緒に考えたいので」と相談に来るよう提案した。
- 5 **D**さんに「興奮しているので母親と代わってほしい」と依頼し、母親に対応のまずさを指摘し、「**D**さんに謝ってなだめるように」と助言した。

問題 54 次のうち、E精神保健福祉士がDさんに勧めるサービスとして、適切なものを2つ選びなさい。

- 1 精神科ショート・ケア
- 2 ピアソーター養成講座
- 3 訪問看護
- 4 就労移行支援
- 5 地域活動支援センター

## (精神保健福祉の理論と相談援助の展開・事例問題3)

次の事例を読んで、問題55から問題57までについて答えなさい。

### [事例]

Q市にあるW相談支援事業所のF精神保健福祉士は、市の保健センターのG保健師から、60代の女性から一人息子のHさん(40歳、男性)のひきこもりに関する電話相談があり、精神障害の可能性もあるため訪問に同行してほしいとの依頼を受けた。

F精神保健福祉士は、G保健師とともにこの家庭を訪問し、両親との面接を行った。訪問の目的を伝えると父親は硬い表情で黙っていたが、母親は自分から話を始めた。

母親の話では、Hさんは大学を卒業後に地元の企業に就職したが、元来気弱な性格で、社内でのちょっとしたトラブルをきっかけに26歳で退社して以来、家から外に出なくなってしまったのだという。当初は、食事の時などには家族と顔を合わせていたものの、2年ほどたったころから「人が怖い」などと言うようになり、29歳の時には父親が無理やり病院に連れて行っている。この時、医師から通院を勧められたのだが、Hさんは治療を拒否し、以後は受診していない。その後は、家族とも顔を合わせなくなり、自室にひきこもってTVゲームやビデオを見るだけの生活が続いている。しかし、今年定年退職した父親が強引にHさんの部屋に入って「いつまでも甘えてないで働け」と強く言うようになり、最近ではイライラしたHさんが父親と口論になることも増えてきたため、母親が父親に内緒で保健センターに相談をしたのだという。

### (問題55)

それまで無言だった父親は、「妻が甘やかしてきたのが悪い」と言い、Hさんについても「家でダラダラと過ごしているばかりでなんの役にも立たない。働かなくても食べさせてももらえると思っているからだめなんだ」と厳しい口調で語った。今回の訪問に関しても「妻が勝手なことをしたが、あなた方が来てもどうにもならない。病院だって役に立たなかった」と不満を漏らした。(問題56)

結局、初回訪問ではHさんに会うことができなかつたが、父親も渋々ではあったが次回の訪問を了承してくれた。F精神保健福祉士とG保健師は、W相談支援事業所に戻ってHさん家族に対する今後の支援をどうするかについて話し合った。(問題57)

**問題 55** 次の記述のうち、この時点でのF精神保健福祉士の家族への対応として、適切なものを1つ選びなさい。

- 1 Hさんがひきこもり始めた早期に専門的対応が必要であったことを伝える。
- 2 Hさんを無理やりではなく、説得して受診させるべきであったと伝える。
- 3 Hさんをすぐに受診させるための助言を行う。
- 4 Hさん及び家族が置かれていた状況を整理して確認し合う。
- 5 Hさんの心理状態について解説する。

**問題 56** 次の記述のうち、この時点でF精神保健福祉士の父親に対する働きかけとして、適切なものを1つ選びなさい。

- 1 父親の高い感情表出(高EE)が問題であると指摘する。
- 2 地域の家族会の情報を提供する。
- 3 父親にもっと積極的に支援にかかわるよう促す。
- 4 母親の相談が適切であったことを父親に説明する。
- 5 父親自身の考え方やHさんへの思いを詳しく話すよう促す。

**問題 57** 次のうち、次回の訪問で行うべき支援として、適切なものを1つ選びなさい。

- 1 父親に対する心理教育
- 2 母親に対する心理カウンセリング
- 3 Hさんに対する就労支援
- 4 Hさん家族との関係づくり
- 5 Hさん家族が改善すべき問題点の指摘

## (精神保健福祉の理論と相談援助の展開・事例問題 4)

次の事例を読んで、問題 58 から問題 60 までについて答えなさい。

### [事例]

J 精神保健福祉士は、人口 13 万人の R 市の地域活動支援センター I 型のセンター長である。このセンターを運営する社会福祉法人では、市内の商店街に就労移行支援事業所の開設を計画しているが、予定地の町内会の住民から施設設立に対する不安の声があがり始めている。心配をした市議会議員や市障害者福祉課課長からの連絡を受け、法人内での対策会議が開かれ、J 精神保健福祉士は意見を求められた。(問題 58)

J 精神保健福祉士は、施設コンフリクトを未然に防ぐことや、精神疾患や障害を抱えていても安心・安全に暮らせるまちづくりが必要と考え、地域の様々な社会福祉法人の精神保健福祉士たちと話し合う機会をもった。そこでは、精神障害への理解を広めることに加えて、精神障害者の地域生活を一緒にサポートしてくれる地域住民を増やすことが必要だという意見が多くあがり、精神保健福祉ボランティア講座の開催が提案された。検討を重ねた結果、実施することが決まった。主担当となった J 精神保健福祉士は、同じく施設コンフリクトへの危機感を高めていた市内の精神科クリニックや事業所の精神保健福祉士、社会福祉協議会、既に市内で活動をしている精神保健福祉ボランティア、精神障害のある当事者やその家族などに声をかけ、約 20 名が集まり実行委員会が立ち上がった。講座の企画を話し合う会議の中で、「精神障害者の生活のしづらさに焦点を当てた講座にしたい」との意見が多く出され、J 精神保健福祉士は講座の内容についてアドバイスを求められた。(問題 59)

約 3 か月間にわたる準備期間を経て開講された講座は、60 名を超す受講者が集まり、皆、熱心に学んでいた。すべてのプログラムの終了時、受講者から「講座で学んだことをこのままにせず、いかしたい」「実際に活動したい」などの意見が次々に出された。その後、参加者の代表 7 人の話し合いを重ね、ボランティアグループを立ち上げることになった。J 精神保健福祉士は、「今まで行政や専門職ではできなかった、地域課題に対応する新しい活動が期待されている」と伝えた。(問題 60)

**問題 58** 次の記述のうち、この時点でのJ精神保健福祉士の提案として、適切なものを2つ選びなさい。

- 1 住民との話し合いで解決しないと判断し、裁判を起こす。
- 2 近隣住民も活用できるような事業を検討する。
- 3 市には協力を求めず、住民と社会福祉法人の間で解決する。
- 4 市長に中立的な立場から妥協案を示してもらうよう依頼する。
- 5 偏見をなくす良い機会と考え、様々な地域啓発活動に取り組む。

**問題 59** 次の記述のうち、この時点のJ精神保健福祉士のアドバイスとして、適切なものを2つ選びなさい。

- 1 精神医学の理解を中心とする。
- 2 ボランティアの専門性が十分に学べる内容にする。
- 3 精神障害のある当事者との交流体験を行う。
- 4 丁寧なふりかえりを行う。
- 5 プログラム全体の講師陣は、精神保健福祉の専門職で構成する。

**問題 60** 次の記述のうち、J精神保健福祉士がボランティアに期待したこととして、適切なものを2つ選びなさい。

- 1 住民全体に対して公平に提供される活動を実施すること。
- 2 無償の人材として事業所の支え手になること。
- 3 ボランティア自身が社会で必要とされるものを考え、よりよい社会をつくること。
- 4 ボランティア自身の生活の質の向上や、自分を見つめる機会とすること。
- 5 個人の自由意思に基づく活動であるため、活動は自分たち自身で探すこと。